

土木学会選奨土木遺産 戦争遺産を後世に伝える

かいてん 回天訓練基地跡



周南市^{おおづしま}大津島は徳山下松港の沖合い 10 数 km に位置する島です。豊臣秀吉が大阪城の築城の際、城壁の石垣に用いたのが大津島周辺で産出する御影石で、今も特産品となっています。また、大津島は北東に位置する黒髪島・仙島と囲むように徳山湾を外海から隔てており、天然の良港にしています。

穏やかな瀬戸内の島の一角である馬島港から数分の岩陰に、ひっそりと立つのが旧回天訓練基地です。`天を回らし、戦局を逆転させる`との願いをこめた「回天」は、改造された魚雷に人が乗り込み、敵艦に特攻する特殊兵器「人間魚雷」で、その訓練基地が大津島でした。

元々この施設は、昭和 14 年に九三式酸素魚雷の発射試験場として造られたもので、呉市の海軍工廠水雷部^{たてがみ}で製作された魚雷を海上運搬し、ここから発射した魚雷の性能を 巖山山頂付近の魚雷見張所において確認していたそうです。その発射口を基地本体部の床部分に、見ることができます。

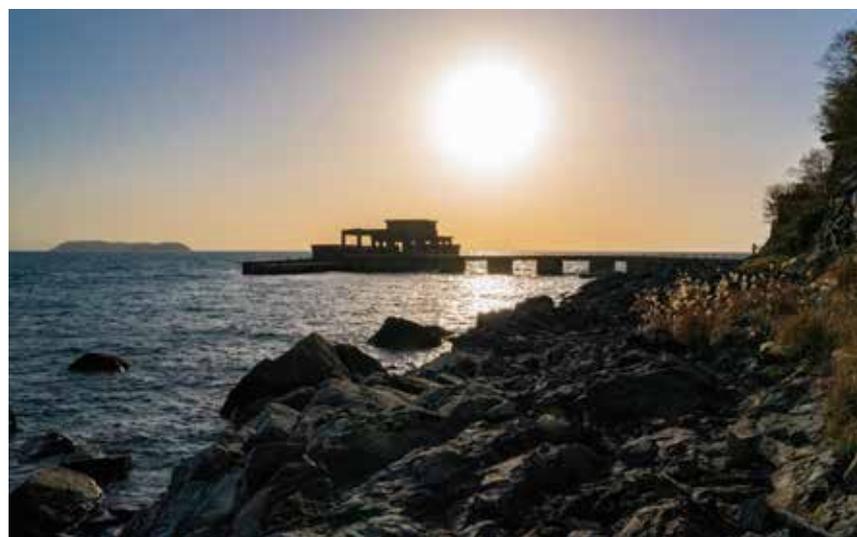
しかし昭和 19 年（1944）9 月から、回天の訓練基地に変わりました。整備工場からトンネル内をトロッコで運ばれた回天は、基地前のクレーンで海面に降ろされ、沖合いに設置したブイまで曳航後、島の周囲を巡る 3 コースで訓練を行います。一方、実地訓練がない搭乗員たちは、基地の 2 階に用意された簡易机上襲撃演習機で訓練の不足を補っていました。

全国で唯一残っている人間魚雷「回天」の訓練基地は、戦争遺産として貴重であるとして、平成 18 年に土木学会の選奨土木遺産に認定されました。



回天を海上に下ろすために使われたクレーンの基礎跡

一見すると、工場跡にも見えるコンクリート構造物ですが、トンネル内に展示された写真や回天記念館に展示されている貴重な資料は、いやがうえにも人間魚雷と言われた回天の事実を伝えてくれます。反面、軍事施設跡に整備された大津島ふれあいセンターは今日の平和のありがたさを思い起こさせてくれます。



回天訓練基地跡

■位置図



酸素魚雷用の発射口



2 階には基地司令官手作りの目標船がどちらに向かって見分けるかを見分ける演習機があった。基地部、橋脚部ともにケーソンが用いられている。



整備工場からトロッコに載せてこのトンネルを通り、訓練基地まで運ばれた。埋められたレール跡やトンネル内に展示されている写真によって、回天訓練基地であったことを改めて思い起こされる。